



大瀬崎（静岡県沼津市江梨大瀬崎）と富士山

伊豆半島の西海岸側の根元にある大瀬崎（おせざき）は駿河湾に突き出した岬です。大瀬崎にある大瀬神社は照葉樹林に囲まれており、見事なジャクシン樹林も見られます。ここには樹齢1000年以上のジャクシンがあります。大瀬崎のジャクシンが徐福とどのように関わるかは全く不明です。しかし、九州佐賀県佐賀市諸富町の新北神社の神木でもあるジャクシンという木はもともと大陸の暖かいところで育つ樹木で、この種を日本に持ってきた徐福がまいたと伝わっています。また、徐福が最後に上陸した場所は大瀬崎の対岸の富士市か沼津市のどこかの海岸であろうと考えられます。このことから、大瀬崎のジャクシンも徐福と何らかの関係があると推測しています。



山梨県 山中湖

山中湖に面した長池村は、以前は長命村と呼ばれており、蓬萊山に不老不死の仙薬を求めた徐福の子孫が住みついたとされる村です。



山梨県南都留郡 河口湖町

河口湖にも徐福に関する言い伝えが残っています。

不老不死の仙薬を探し求めた徐福でしたが結局見つけることができませんでした。このまま国へ帰ることができず、徐福はここに永住することを決意しました。連れてきた童子300～500人を奴僕として河口湖の北岸の里で農地開拓をしました。この地の娘を妻として帰化し（注）、村人には養蚕・機織り・農業技術などを教えました。やがてここで亡くなりました。

亡くなって後も鶴になって村人を護ったので、この地名を都留郡（つるごおり）と呼ぶようになりました。

（注）この部分の問い合わせをいただきました。河口湖町誌に書かれている内容ですが、原文の確認ができていません。町誌がどこにあるかもわからないままになっています。そのため、どのような女性が妻となったかは不明です。村の娘、同行者の娘のどちらかであろうと推測します。